



ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
また、2011年3月の東北地方太平洋沖地震により、被災されました株主の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

SBIホールディングス株式会社
代表取締役 執行役員 CEO **北尾 吉孝**

事業環境および連結業績について

当期における当社事業を取り巻く環境は、国内株式市場が第2四半期(2010年7月～9月)を底に回復基調となりつつも、個人株式委託売買代金は前期比16.3%の減少となるなど、依然として厳しい状況にありました。一方、海外では、成長期待の高い新興国の株式市場が比較的堅調に推移し、株式の新規上場も活発に行われました。また、インターネット金融サービスの分野においては、同サービスを活用するメリットに対する認知も広がりつつあり、対面での金融取引からの移行が進んでまいりました。

このような環境のもと、当社の当期連結業績は、売上高が1,410

億円(前期比13.3%増)、営業利益が89億円(同160.3%増)、経常利益が35億円(同216.8%増)、当期純利益が45億円(同93.0%増)と増収増益を達成しました。円高の急進による為替差損の発生が経常利益に一時的な影響を及ぼしたものの、主要セグメントにおいては、保有株式の売却が順調に進んだアセットマネジメント事業や、SBIモーゲージでの住宅ローン商品販売が好調であった住宅不動産関連事業が、大幅な増益となりました。

このような結果、当期末の1株当たり当期純利益(EPS)においても、当期中に公募増資を実施しながらも、前期比68.3%増加しました。

配当金について

当期の1株当たり期末配当金につきましては、普通配当100円といたしました。また、香港証券取引所メインボード市場に上場したことを記念して、加えて記念配当20円を実施し、当期末の配当金合計は、1株当たり120円(連結での配当性向は50.8%)とさせていただきます。

今後とも、当社事業の発展と企業価値の向上へ向けて、全役員一同尽力してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

	中 間	期 末		年 間
		普通配当	記念配当	
2011年3月期	-	100円	20円 (香港上場記念)	120円
2010年3月期	-	50円	50円 (創業10周年記念)	100円
2009年3月期	-	100円	-	100円

日本のSBIから世界のSBIへ



創業以来、グループの規模拡大と金融生態系の構築を最優先に邁進してきた結果、当社グループは日本国内において、インターネットを通じた金融サービスを中核に据えた総合金融グループとしての事業構築を、ほぼ完成に近づけることができました。

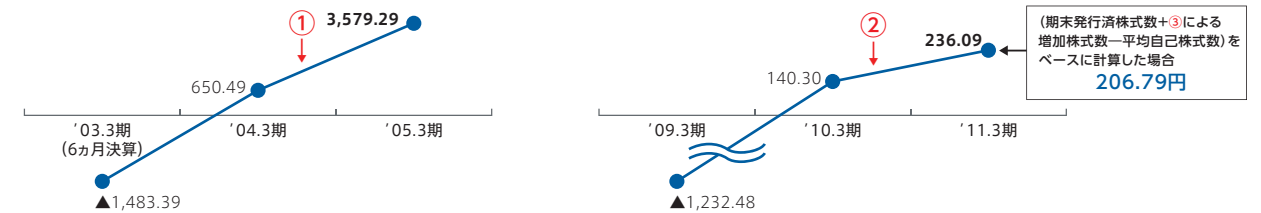
そして、2010年7月に打ち出したSBIグループの「プリリアントカット化」という新たな経営コンセプトのもと、当期においては国内外でグループ内シナジーのさらなる強化を図るとともに、子会社の再編等による事業の効率化を推し進め、グループ全体

としてより一層収益性の高い経営体制の構築に努めてまいりました。また、海外事業においては投資事業等を通じて得た現地の有力パートナーとの関係を活かし、アジアを中心とした新興諸国において金融機関への出資を拡大しております。日本においてこれまでに蓄積してきた証券・銀行・保険などの事業運営に関するノウハウ等を活用し、海外での金融サービス事業展開を加速してまいります。

さらに、海外における体制強化の中で2011年4月には香港証券取引所メインボード市場への上場を果たしました。今後は香港での第二本社設置計画や、欧州・中国エリアをそれぞれ統括する事業統括会社の設立を予定(欧州についてはロンドンに2011年4月27日に設立済み)するなど、当社は海外にも軸足を置くグローバル企業へと成長を続けてまいります。(詳細については、P5～7をご覧ください。)

SBIグループが考える公募増資のタイミング=
株式数増加後も1株当たり当期純利益(EPS)の向上が見込める環境にあると判断できるとき

公募増資前後の1株当たり当期純利益金額(株式分割考慮後/単位:円)



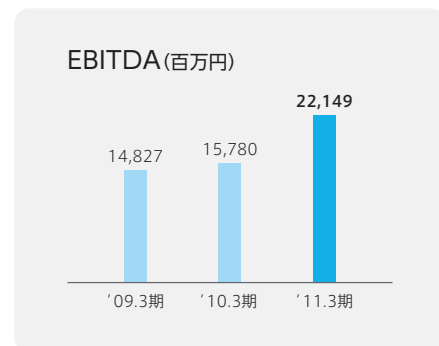
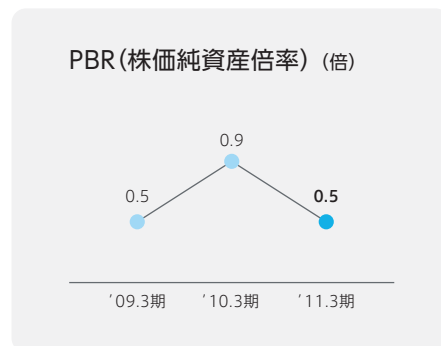
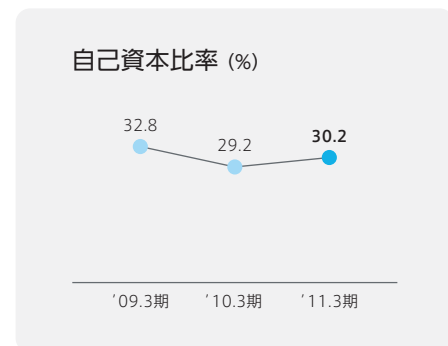
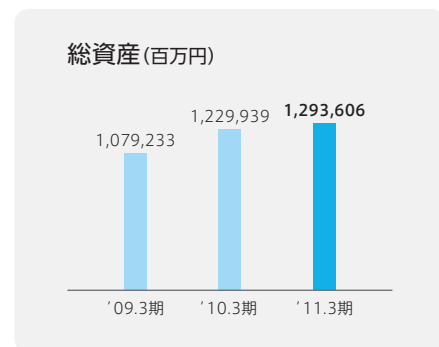
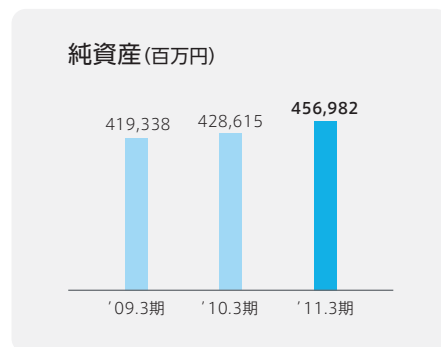
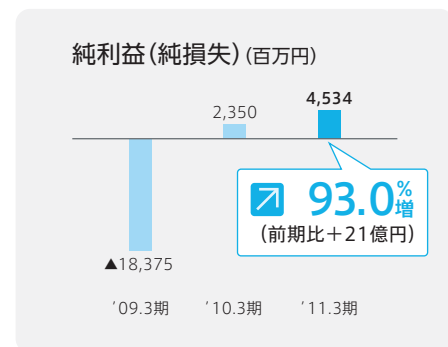
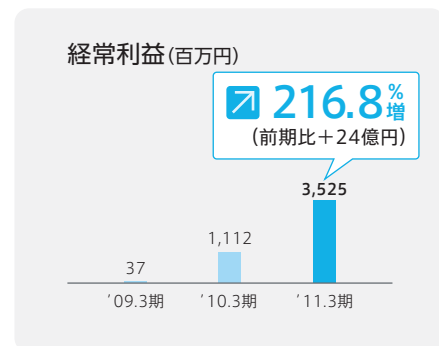
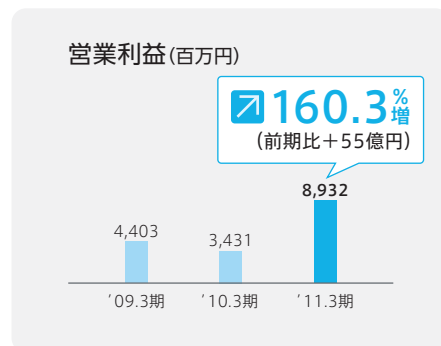
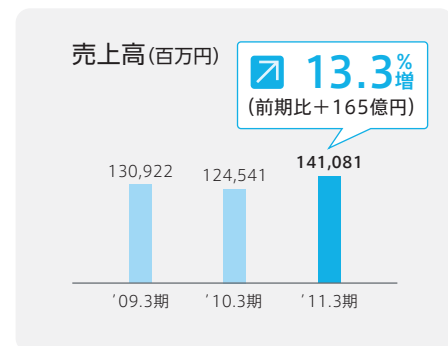
①2005年3月の公募増資
調達金額(※)512億円 希薄化率20.31%
(※)一般募集および第三者割当による手取金総額

②2010年6月の公募増資
調達金額(※)353億円 希薄化率18.54%
(※)一般募集による手取金総額

③2011年4月の香港上場に伴う公募増資
(2011年3月25日決議)
調達金額(※)約162億円 希薄化率10.02%
(※)一般募集および第三者割当による手取金総額

決算ハイライト

決算ハイライト



PBR = 各期末当社株式東証終値 / 各期末1株当たり純資産
(2011年3月末当社株式東証終値:10,470円)

EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

セグメント別業績の概況

アセットマネジメント事業

売上高 30,701百万円(前期比52.1%増)
営業利益 9,577百万円(前期比276.5%増)

- 低調な国内IPO市場に依存することなく、海外投資先企業において順調にIPO・M&Aを実現し、当期のIPO・M&A実績は前期比1.5倍となる17社(うち、海外でのIPO・M&A実績が16社)となりました。
- New Horizon Fund(1号ファンド)は保有株式の売却を継続して実施し、当期累計での営業利益貢献額は33億円となりました。
- 当期における投資実行額は累計644億円となり、引き続き高水準の投資を行いました。

ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

売上高 47,873百万円(前期比4.5%減)
営業利益 6,123百万円(前期比34.7%減)

- 個人株式委託売買代金が前期比16.3%減少したことに伴い、SBI証券における委託手数料収入は166億円(前期比14.8%減)となりました。
- 一方で、投資信託および外国債券の販売が好調だったことなどにより、連結営業収益は440億円と前期比4.4%の減少にとどまりました。
- SBIリクイディティ・マーケットでは、2010年8月よりFX取引に係るレバレッジ規制が導入されたものの、売買代金は引き続き高水準を維持し、営業利益貢献額は連結ベースで77億円となりました。(SBI証券におけるトレーディング益を含む)

ファイナンシャル・サービス事業

売上高 30,530百万円(前期比19.2%増)
営業利益 ▲536百万円(前期比-)

- 主要子会社であるモーニングスターおよびSBIベリトランスの営業利益は、いずれも前期比2桁の増益を達成しました。
- SBIカードにて貸倒引当金繰入13億円を計上、また当第2四半期より連結子会社となったSBIクレジット(オートローン事業等)にて営業損失6億円を計上しました。
- 開業4期目となる住信SBIネット銀行は、順調に顧客基盤を拡大し、当期の経常利益は前期比56.4%増となる36億円となりました。

住宅不動産関連事業

売上高 23,467百万円(前期比36.8%増)
営業利益 3,370百万円(前期比286.4%増)

- SBIライフリビングは「チケット流通センター」「ムスビー」などのEC仲介サイトが引き続き堅調に推移したことから、当期の営業利益は前期比3.8倍となりました。
- 「フラット35」を提供するSBIモーゲージの店舗数は106店舗に達し(2011年4月末時点)、金利優遇策を追い風に融資実行残高は一層の拡大を見せました。当期の業績は大きく伸長し、当期純利益は前期比2.5倍となりました。

※セグメント区分の変更について
当期よりセグメント情報に関する新たな会計基準が適用されたことに伴い、システム関連事業、創業事業および服飾関連事業等については報告セグメントに含まれない「その他」の区分に集計しております。

日本のSBIから世界のSBIへの転換に向けた体制を強化

高まる海外事業からの収益貢献

当社は、アジアの新興諸国を中心に現地の有力パートナーと連携し、投資事業のほか、銀行業・証券業・保険業などへの出資を通じた金融サービス事業への展開を積極的に進めています。当期においても、こうした海外事業からの収益が当社利益に大きく貢献をしています。

アセットマネジメント事業

営業投資有価証券売上高に
占める海外銘柄の比率^(※)

91.2%

(※)アセットマネジメント事業における営業投資有価証券売上高(配当・利息を含む)に占める、海外企業投資による売上比率

ファイナンシャル・サービス事業

経常利益における海外比率^(※)

32.1%

(※)ファイナンシャル・サービス事業の経常利益に占める以下の海外金融機関の持分法による投資利益の比率
・Tien Phong Commercial Joint Stock Bank (ティエン・ホン銀行/ベトナム)
・Phnom Penh Commercial Bank (プノンベン商業銀行/カンボジア)

海外組織体制の強化

当社では今後、中国、欧州における各拠点を統括する事業統括会社を設立し、現地での事業の拡大、効率化を進めてまいります。また、グループ全体の海外事業を統括する第二本社を香港に設置し、本社機能の一部も香港に移転することで、海外組織体制のさらなる強化を図ってまいります。

■ グループ海外事業を統括する第二本社を香港に設置

- 香港の第二本社化に向けて、本社機能の一部を移転（今後は原則として海外事業は香港の第二本社で統括）

■ 中国事業統括会社（投資性会社）を今夏を目処に中国・大連に設立予定

- 北京、上海駐在員事務所を大連（高新技術産業園區）に設立予定の中国事業統括会社のもとに集約
- 駐在員事務所では不可能であった営業活動や迅速な投資機会への対応が可能に
- オフィスや税金などの財政面での補助、提携パートナーの紹介などの市政府による優遇策

■ 欧州事業統括会社をロンドンに設立（2011年4月27日設立）

- 欧州関連資産の集約・管理
- 既設のロシアファンド、ハンガリーファンド等、欧州地域のファンドの運営統括
- 欧州地域の金融機関等への出資およびインターネット金融事業の展開等

日本企業として初となる香港証券取引所への上場

海外での事業拡大に合わせて、中国をはじめとするアジア新興諸国での信用力・知名度向上を目指し、2011年4月14日、当社は日本に本社を置く企業として初めて、当社普通株式を原株とする香港預託証券(HDR)^(※)を香港証券取引所のメインボード市場に上場しました(証券コード:06488)。これを契機として海外展開を加速させることで、グローバル企業としてさらなる成長を目指してまいります。
(※)HDRとは、「Hong Kong Depositary Receipt」の略で、預託機関が預託された当社の原株を裏付けとして香港で発行する証券をいいます。



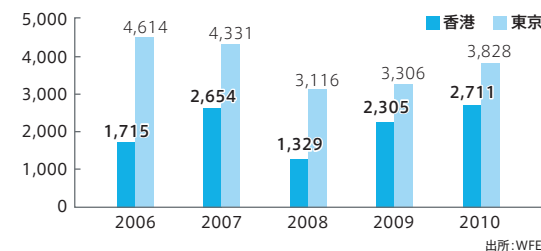
国際的な重要性を増す香港市場

金融危機後の日本の株式市場の出遅れが目立つ一方で、アジアの株式市場は堅調に推移しています。中国をはじめとした成長著しいアジアの新興諸国への投資を積極的に進めてきた当社では、今後、その中でも国際的な重要性を増す香港資本市場を最大限活用し、海外投資を積極的に進めるほか、海外事業向け資金調達手段の多様化を図ってまいります。

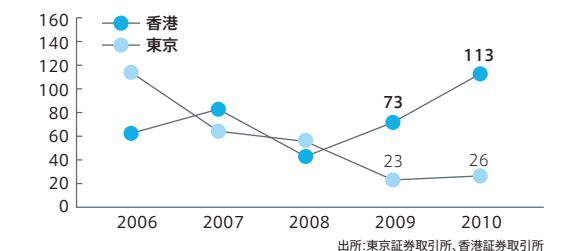
■ 香港市場の特徴

- 中国の経済力を背景に国際金融センターとしての重要性が増大
- 世界の機関投資家が元建て債券や株式にアクセスできる資本市場(海外投資家層は約5割)
- 2009年、2010年の年間IPO調達額は世界第1位に

上場企業時価総額の推移(各年12月末時点)
(単位:10億米ドル)



新規上場会社数の推移(暦年ベース)
(単位:社)



From Japan's SBI to the World's SBI

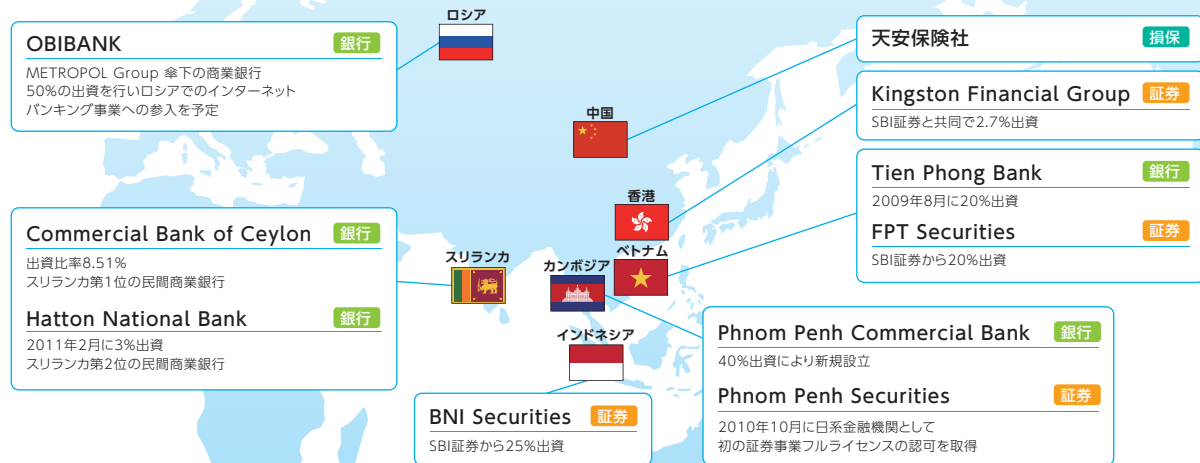
海外有力パートナーとの提携により設立したファンド

ファンド名(略称・投資対象国等)	設立時期	パートナー	出資約束金額	SBI出資比率	ファンド名(略称・投資対象国等)	設立時期	パートナー	出資約束金額	SBI出資比率
New Horizon Fund(中国)	2005年5月	TEMASEKグループ(シンガポール政府系投資会社)	100百万USD	50%	Hungary Fund(ハンガリー)	2009年5月	MFIB Invest Ltd(ハンガリー開発銀行の100%子会社)	100百万EUR	60%
清華大学ファンド(中国)	2008年1月	清華ホールディングス(北京の清華大学グループ会社)	34.5百万USD	87.1%	Malaysia Fund(アジア)	2009年12月	PNB Equity Resource Corporation(マレーシア国営資産運用機関の100%子会社)	50百万USD	50%
北京大学ファンド(中国)	2008年2月	北京大青島環宇(北京大学傘下の戦略投資部門)	100百万USD	50.1%	SBI-METROPOL Investment Fund(ロシア)	2010年11月	IFC METROPOL(ロシアの大手総合金融グループ)	100百万USD	50%
復旦大学ファンド(中国)	2011年後半(予定)	復旦復華(復旦大学傘上の上場企業)	76.3百万USD	10~20%	SBI-Islamic Fund(イスラム系企業等)	2010年6月	ブルネイ=グルサラム国・財務省	59.4百万USD	50%
中国三社との共同ファンド(中国)	2009年3月	招商証券、源裕投資、中信銀行	Offshore:約20.5百万USD(SBI側) Onshore:約9百万USD(中国側)		SBI-Jefferies Asia Fund(アジア)	2010年7月	Jefferies & Group, Inc.(米国大手証券会社)	50百万USD	80%
					Jefferies-SBI USA Fund(米国)	2010年6月	Jefferies & Group, Inc.(米国大手証券会社)	150百万USD	50%
台湾ファンド(台湾、中国)	2008年10月	台湾のIT企業創業者	22.5百万USD	66.7%	アフリカファンド(北・中央アフリカ)	2011年1月	Invest AD(アフリカ投資評議会の子会社)	75百万USD	50%
Vietnam Japan Fund(ベトナム)	2008年4月	FPT社(ベトナム最大のIT企業)	76.5百万USD	96.2%	トルコファンド(トルコ)	2011年中(予定)	Invest AD(アフリカ投資評議会の子会社)	100百万USD	50%
SBI SOI Fund(アジア)	2008年6月	慶応義塾大学	5億円	100%	ブラジルファンド(ブラジル)	2011年後半(予定)	Jardim Botânico Investimentos(ブラジルの資産運用会社)	125百万USD	50%

(※) 出資約束金額の一部については、2011年3月31日の為替レートでUSDに換算しています。(1USD=6.5483人民元、1USD=20.903ベトナムドン、1USD=1.2602シンガポールドル)

アジア地域を中心とした海外金融機関への出資状況 ※一部予定を含む

銀行・証券会社・保険会社への出資によりインターネット金融サービス事業の海外展開の土台を築いてまいります。



インサイドSBI

SBIグループにおいてEC(電子商取引) 決済事業を提供するSBIベリトランスの 担当者に、現在同社が推進している 海外でのビジネスについて聞きました。



SBIベリトランス株式会社 執行役員 国際戦略部長 王 磊

当社の海外事業への進出は、今から約3年前、2008年の春にさかのぼります。日本のEC市場の発展に伴い、顧客企業さまとともに順調に利益成長を続けてきたわけですが、今後直面せざるを得ない国内少子高齢化の問題等を見据え、これからは「グローバルマーケットへの進出が不可欠」と、当社COOとともに決意したことを覚えています。

以来、日本のEC事業者が中国本土の消費者に商品を販売展開するための「銀聯ネット決済サービス」(※1)や、欧米や東南アジアを中心に販売展開するための「PayPal決済サービス」(※2)を、それぞれ中国・銀聯社や米国・PayPal社と連携し、国際決済事業の基盤を築いてきました。法務・営業・技術・オペレーションなど、社内の関連部署と海外企業との調整を図りながら、数えきれないほどの問題点の一つひとつクリアしてきました。それには大変な苦勞を伴いましたが、一方で、当社の社内組織からシステムに至るまで、しっかりと着実にグローバルの『DNA』を注入・植えつけることができました。今のSBIベリトランスは間違いなく、東京に本拠を置く、グローバル

企業に成長できたものと思っています。

EC決済は、今後ますます社会を活性化するために必要な基盤サービスになるものと実感しています。私たちの運営する中国向けインターネット通販サイト「佰宜杰.com(バイジェイドットコム)」は、高品質な日本商品を中国本土の消費者へ紹介するとともに、東日本大震災の後からは、中国本土の消費者からの銀聯カードによる募金を受け付けるサイトとしての役割も担っています。このような災害の時にこそ、人と人とのつながりの重要性を強く感じますが、私たちが提供している金融サービスは、こうした国境を越えたニーズにも幅広く応えていけるものと思っています。

(※1) 中国国内で約22億枚(2010年6月末時点)発行されている銀聯カードの使用を可能とした決済。銀聯とは中国の銀行が発行するキャッシュカードに付与されているブランドで、来日するほとんどの中国人が所持しているといわれるカードです。
(※2) クレジットカード情報を支払い相手に通知することなく支払いが行える米国発の決済。現在190の国と地域で利用でき、21通貨に対応。登録ユーザー(アカウント)数は2億2,200万超におよび、国内外数多くのECサイトにて採用されています。(数値についてはPayPal社HPより)



知って役立つ! SBIグループサービス活用法



Fサーチ 検索



クリックだけで、お目当ての投資信託を検索できる「Fサーチ」機能

株式会社SBI証券 経営企画部WEBマネジメント課/田村 雄気

個人投資家の皆さまの検索ユーザビリティを、大幅に向上させるツールです。その直感的な操作性に触れ、よりスピーディーな検索機能をご体感ください。

ネット証券No.1(*)の豊富なラインナップからカンタン検索

投資信託の取り扱い本数は1,094本 (MMF等含む)、うち積み立て対応投資信託本数1,001本と、ネット証券の中でNo.1の充実した品揃えを誇るSBI証券。豊富な商品ラインナップのメリットをお客さまにさらに実感していただくには、商品が探しやすい検索システムの存在が不可欠と考え、ニーズに合った投資信託を、お客さまにストレスなく見つけていただくための新しい投信検索ツールとして誕生したのが「Fサーチ」です。

(※)2011年4月末時点

スピーディーに投資信託の絞り込みが可能

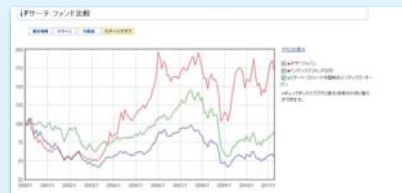
「Fサーチ」の特徴は、文字入力の必要が一切なく、マウスをクリックしていただくだけでご自身のニーズに合った投資信託を探せる点にあります。サイトの画面左側パネルに並んだ様々な検索条件の中から希望する項目をクリックしていただくだけで、お客さまの条件に合致したファンド一覧が即座に表示されます。例えば、毎月分配型で、投資対象は債券、投資先はブラジルという条件で投資信託を探りたい場合は、「毎月分配型」「債券」「南米」・・・と項目をクリックしていけば、条件に合致したファンドが344本→174本→7本・・・という具合に絞り込まれていきます。検索結果が思わしくなければ、一つ前に戻って検索条件を見直すこともできます。



商品検索画面

これまでの運用成績なども、グラフでカンタン比較

また、「Fサーチ」では、気になる投資信託を5本まで選び、項目別に比較する機能も備えています。手数料や信託報酬、過去の運用実績、分配金などを一覧で比較できるほか、これまでの運用成績の推移をグラフで簡単に比べることができるため、様々な角度から自分に適した商品の選択を行うことが可能です。今後もお客さまの声に耳を傾けながら、さらなる改良を図ってまいります。



商品比較画面

お金の運用から家計の管理まで、SBIグループではお客さまのマネーライフをサポートするサービスを幅広く提供しています。ここでは、ぜひ皆さまに知っていただきたい便利なサービスや役立つツールについてご紹介いたします。



マネールック 検索



対応金融機関数は業界最多の700社超! 資産管理サービス「マネールック」

SBIホールディングス株式会社 ソリューション企画部マネールック事業課/森田 直樹

家計簿から資産管理まで総合的にお金を管理することができるサービスです。ぜひ一度お試しください、その利便性を実感してください。

WEB上で自分の資産を一括管理

「マネールック」は簡単、安心、便利な機能でお客さまのお金の管理をサポートするWEB上の口座管理サービスです。銀行・証券・クレジットカードに加え、電子マネーやポイント情報、公共料金など、複数に分かれた資産(口座)をまとめて管理することができ、自分の口座情報をご登録いただくと、あとはワンクリックですべての残高、利用明細をまとめて自動的に取得できます。

※SBIグループのサービスでは、住信SBIネット銀行、SBI証券、SBIカードのアカウントを管理することができます。



口座管理画面



複数口座をまとめて管理

家計簿機能としての役割

また、2010年10月にリニューアルを行い、これまでご要望の多かった家計簿機能を搭載いたしました。家計簿にはメールやツイッターからも記録が行えるほか、日々記録した支出を様々なグラフで表示し分析することができるため、お客さまにはさらに効率的にお金の管理を行っていただくことが可能になりました。「マネールック」は、これまで非常に多くのお客さまにご支持いただいております。累計会員数は57万人(2011年3月末時点)に上ります。今後も、携帯電話(スマートフォンを含む)でのサービス提供やよりよいマネーライフのサポートができるコンテンツの追加など、さらなる付加価値の創造に努めてまいります。



資産の内訳や支出の状況をグラフで表示

POINT こんな方にオススメです

- 株式やFX投資などで複数口座を持っていて、自分の資産状況を一覧で把握したい方
- 複数のクレジットカードを持っていて、その支出をきちんと管理したい方
- 気軽に家計簿をつけたい方

連結財務諸表 Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表(要約) (百万円)

科目	前期末 2010.3.31	当期末 2011.3.31
資産の部		
流動資産	980,323	1,028,779
現金及び預金	143,726	150,268
営業投資有価証券 POINT 1	113,152	132,773
預託金	318,865	347,865
信用取引資産	261,641	250,399
その他	142,937	147,472
固定資産	246,395	258,926
有形固定資産	20,613	28,431
無形固定資産	145,286	140,244
投資その他の資産	80,494	90,250
繰延資産	3,220	5,900
資産合計	1,229,939	1,293,606

POINT 1

アセットマネジメント事業におけるアジアを中心とした新興諸国の有望企業への投資が順調に拡大しており、営業投資有価証券は前期末比17.3%増加しました。

科目	前期末 2010.3.31	当期末 2011.3.31
負債の部		
流動負債	747,090	780,597
短期借入金	55,614	97,164
1年内償還予定の社債 POINT 2	112,600	70,060
信用取引負債	150,036	143,757
受入保証金	282,373	309,134
その他	146,465	160,481
固定負債	47,014	50,828
特別法上の準備金	7,219	5,197
負債合計	801,324	836,623
純資産の部		
株主資本	361,282	397,983
評価・換算差額等	▲2,051	▲7,155
新株予約権	11	11
少数株主持分	69,372	66,142
純資産合計	428,615	456,982
負債純資産合計	1,229,939	1,293,606

POINT 2

ユーロMTNプログラムに基づく社債の発行(計6回、総額700億円)を行った一方で、前期に発行した同社債が償還(計10回、総額1,100億円)を迎え、1年内償還予定の社債の残高は700億円となりました。

連結損益計算書(要約) (百万円)

科目	前期 2009.4.1~2010.3.31	当期 2010.4.1~2011.3.31
売上高	124,541	141,081
売上原価	59,138	67,535
売上総利益	65,403	73,546
販売費及び一般管理費	61,971	64,613
営業利益	3,431	8,932
営業外収益	1,185	1,186
営業外費用 POINT 3	3,504	6,593
経常利益	1,112	3,525
特別利益	3,466	10,018
特別損失 POINT 4	3,658	8,113
税金等調整前当期純利益	920	5,430
法人税等	736	7,092
少数株主損益調整前当期純損失(▲)	—	▲1,661
少数株主損失(▲)	▲2,165	▲6,196
当期純利益	2,350	4,534

POINT 3

SBI Korea Holdingsにおいて、円建て借入金の為替差損6億円を計上するなど、急激な円高の進行により収益に影響を受けました。一方で、円高により海外への投資コストは低減しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (百万円)

科目	前期 2009.4.1~2010.3.31	当期 2010.4.1~2011.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲53,134	▲742
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲15,563	▲16,642
財務活動によるキャッシュ・フロー	84,599	25,154
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲490	▲2,893
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	15,410	4,876
新規連結等に伴う現金及び現金同等物の増加額	858	1,328
現金及び現金同等物の期首残高	126,312	142,581
現金及び現金同等物の期末残高	142,581	148,786

POINT 4

SBI証券において、先物・オプション取引、株式信用取引およびFX取引に係る顧客の決済損に対し、貸倒引当金繰入を11億円計上しました。

SBI新サービスのご紹介

SBIレミット

https://www.remit.co.jp/

2010年12月13日サービス開始



日本発×日本初の インターネット国際送金サービス

日本国内の規制緩和を背景として開始された国際送金サービスには、昨今のグローバル化の大きな流れの中で、国際間の小額決済市場の新方法としての需要が見込まれます。SBIレミットの国際送金サービスは、同社のWebサイト上で会員登録(無料)を行ったうえで、Webサイト上および国内提携銀行、ゆうちょ銀行、コンビニエンスストアにおいて送金手続きをすることで簡単にご利用いただくことができます。また、インターネットの特性を活かし、従来の金融機関が行っていた国際送金サービスと比べ大幅に安い手数料を実現しました。さらに、国際送金サービス大手の米国 MoneyGram International, Inc.(マネーグラム社)との提携により、同社の世界約200の国と地域における約23万拠点の取扱店にてスピーディーな送金のお受取りを可能としています。



「Famiポート」が設置してある全国のファミリーマート店舗でも送金手続きが可能

SBIソーシャルレンディング

借手向け https://www.sbi-sociallending.co.jp/
投資家向け https://www.sbi-sociallendingsupport.co.jp/

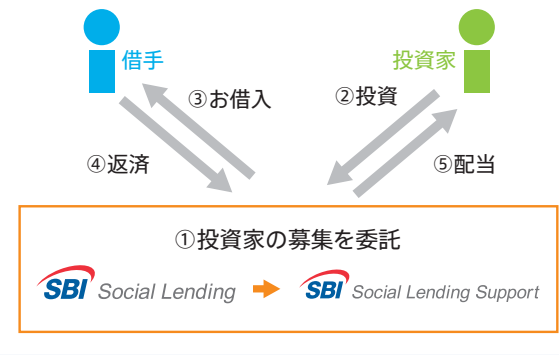
2011年3月28日サービス開始



融資の借手と投資家をネットで結ぶ 新しい金融マーケット

ソーシャルレンディング(個人間融資)とは『お金を借りたい人』と『お金を投資したい人』を、インターネットを通じて結びつけるサービスです。ソーシャルレンディング事業者はインターネットを活用して借手と投資家を結びつけるため、低コスト経営を行うことが可能となり、借手には低金利で、また投資家には高利回りという形で利益を還元することができます。日本では今まであまりなじみのなかったサービスですが、2005年英国でのサービス開始を皮切りに、米国、ドイツ、中国、韓国、オーストラリアなど、世界各国で次々と誕生して急成長を続けており、今後さらなる市場の拡大が見込まれています。

ソーシャルレンディングサービスの仕組み



会社概要・株式の状況

会社概要 (2011年3月31日現在)

社名 SBIホールディングス株式会社
 英文表記 SBI Holdings, Inc.
 本社 東京都港区六本木一丁目6番1号
 事業内容 株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
 設立 1999年7月8日
 資本金 73,236百万円
 従業員数 連結3,397名 単体244名

役員 (2011年6月29日現在)

代表取締役 執行役員 CEO 北尾 吉孝
 取締役執行役員CFO 澤田 安太郎
 取締役執行役員 中川 隆
 取締役執行役員 平井 研司
 取締役執行役員 朝倉 智也
 取締役執行役員 沖田 貴史
 取締役執行役員 円山 法昭
 取締役執行役員 森田 俊平
 取締役執行役員 山内 信二
 取締役執行役員 宮崎 誠
 取締役執行役員 高橋 良巳
 取締役執行役員 高柳 真樹
 取締役 井土 太良
 取締役 城戸 博雅
 取締役 木村 紀義
 取締役 田坂 広志
 取締役 吉田 正樹
 社外取締役 永野 紀吉
 社外取締役 渡邊 啓司
 社外取締役 夏野 剛
 社外取締役 玉木 昭宏
 常勤監査役 藤井 厚司
 社外監査役 島本 龍次郎
 監査役 多田 稔
 社外監査役 早川 久

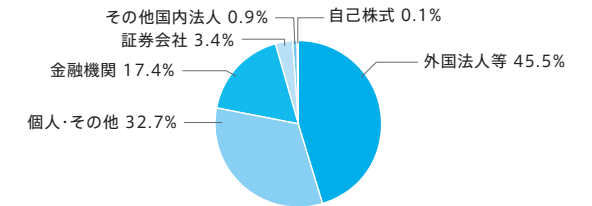
株式の状況 (2011年3月31日現在)

発行可能株式総数 34,169,000株
 発行済株式総数 19,944,018株
 株主数 191,631名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
シービーニューヨーク オービス ファンズ	1,747,538	8.7
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	1,198,102	6.0
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	894,578	4.4
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	755,375	3.7
バンクオブニューヨーク・ジーシーエムクライアントアカウント ジェイビーアールディアイエスジー エフイーエイシー	517,817	2.5
メリルリンチ日本証券(株)	406,412	2.0
サジヤップ	376,628	1.8
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	328,191	1.6
北尾 吉孝	323,626	1.6
パークレイズ バンク ピーエルシー パークレイズ キャピタル セキュリティーズ エスピーエルノビーピーアカウント	303,539	1.5

所有者別株式分布状況



株価/出来高の推移

